

地域差の社会心理学的研究 (2)

——上五島と大阪在住者の心理的諸特性の比較——

藤 本 忠 明

The Analysis of Social Psychological Differences among Communities (2)

——A Comparison of the Psychological Properties between
Osakaites and Kami-Gotoites——

Tadaaki FUJIMOTO

I 問 題 提 起

心理学における地域研究の方向は2つに大別される。その1つは、最近、地域社会心理学なる言葉で示され、地域社会の持つ諸問題に対し心理学的手法を用いて分析し、望ましい地域社会への変革と創造への目標や方法を確立することを課題とする方向であり(田中, 1971)、心理学のみならず社会学、歴史学、人類学、民族(俗)学、言語学、生態地理学、政治学、経済学、医学、工学等々の知見、アプローチを駆使しての地域社会・地域住民へのフィードバックを目標とする方向である。(藤本, 1971) この研究方向は設定された目標が地域社会・住民と積極的にかつ現実的に結びつくもので目的志向型と呼ぶことができる。すべての科学が科学的理論、方法、分析の成果をなんらかの形で社会生活に役立て、人類の幸福に帰与することを究極の目的とする限り、この第1の研究方向は正統の何人も反駁しえないものである。

ただ、この方向にはやっかいな難問—「望ましい地域社会」はいかにあるべきか—が立ちふさがっている。「望ましさ」を個人のレベルでとらえるのか、あるいは地域社会のレベルでとらえるのか、それとも、そのレベルをもっと大きな単位の社会あるいは一国にするのか、また、どういう内容・実体を持って地域社会の変革を迫るのか、さらに、どのレベルと、どの内容が地域住民に真の幸福をもたらすことができるかなどの中核的問題を研究者は慎重に検討する必要がある。筆者は無能にして何んらの解答をもここに提示しえないが、少なくとも確固たる研究者の世界観、多くの人々に肯定され受け入れられる理念が必要であるということだけは間違いなく指適できよう。ために、この方向で地域研究に従事する研究者はややもすれば陥りがちな対症療法的な研究だけで満足すべきではない。そこには一貫した研究理念の息吹が感じとられなければならない。発明・発見は人類の進歩にはかり知れない貢献をしてきたが、また同時に、人類の危機をも招いている。

第2は、県民性の研究に代表されるごとく、その中心課題が地域人さらには日本人の諸特性の解明にある研究方向である。したがって、ここでは地域社会、地域住民への直接的なフィー

ドバックは2次的なものであり、第1の方向と対比すれば無目的との批判をまぬがれない。良き意味につけ悪しき意味につけ、いわゆるアカデミックなこの研究方向は古くは我国各地の人情・風俗・文化・風土を著わした風土記、人国記に通ずるところがあり、現代では「日本人とは何か」という問いかけに集約される。

社会心理学からのこの間に対するアプローチは主として日本人のパーソナリティー、価値観、社会的態度、近隣・縁者との人間関係、日常の生活意識などの面から加えられている。ただ、これらの研究成果は長い歴史を背負った「日本人」の特性を現代的な断面だけでとらえているにすぎないとの見方もできる。文部省統計数理研究所国民性調査委員会が5年ごとに4回（昭和28年、33年、38年、43年）継続的に調査を行ない、日本人の意識構造をとらえている点は高く評価されるが、やはり、「日本人」に対する表層的な成果といわざるをえない。

他方、人類学者、民族学者、歴史学者、哲学者、等々による「日本人論」は日本人を歴史の流れの中であるいは社会とのかかわり合いのもとで巨視的にとらえている。いくつかには一面的な日本人論の展開がみられるが、その多くが歴史の流れの中で生き生きとした日本人像をとらえようとしている点は社会心理学的アプローチに多大の貢献をなすものといえる。

科学的研究には客観性・一般性・抽象性という面が重視され、例えば、歴史小説家の詳細な歴実にもとづきながらも、洞察力を駆使しての生き生きした人物展開にみられる訴求力には乏しいが、巨視的な日本人論の展開には、この科学的研究の成果が大いに生かされなければならない。社会心理学の提供するデータは巨視的日本人論と一体化してその屋台骨をささえるものといえる。

心理学における地域研究はこの意味のデータを比較文化的立場から提供するものであると同時に、心理学における基本的な諸問題、たとえば、パーソナリティー形成、社会化のダイナミックスや社会的行動の基盤・メカニズムの解明に重要な役割を果すものである。たとえば、地域住民のパーソナリティーに視点を置くことは、パーソナリティー形成の諸要因について、特に、所属する地域とどのような力動のかかわり合いのもとに形成・発達・変容されるかという重要な課題へと進展させるものである。

地域研究においていずれの方向をとるかは研究者の関心によるものであるが、Newcomb, T. M. (1950) の社会学的社会心理学、心理学的社会心理学の分類に従えば、第1の方向は前者に、第2の方向は後者に対応するといえる。

筆者の研究は第2の方向に力点が置かれている。筆者が行ってきた調査は主として、長崎県南松浦郡（上五島・中通島）の住民と大阪在住者の心理学的諸特性の比較を目的としたものである。そこでは、両地域人のパーソナリティー、自己像、社会的態度、価値観、生活意見などが問題とされている。自己像の分析においては（藤本, 1971）、上五島住民と大阪在住者にと特有な自己像が見い出された。すなわち、上五島民は全体的に自己評価が低く、自然及び職業に従順で、それらから受ける影響が大きい。他方、大阪在住者は全般的に自己の評価が高く、人格の社会化の過程で社会に対して迎合的であり、自己の特性についての認識が高く、個性性への意識が高い。これは Fromm, E. (1955) の指摘する、都会人にとって性格特性は商品的な価値を持ちはじめたといういわゆる市場的性格が大阪在住者により多く認められることを示すものである。

この分析のごとく、筆者の当面の分析段階は地域住民間の心理学的特性の差異—地域差—を

明らかにすること、その地域差が地域住民の他の諸特性とどのような有機的つながりを持っているか、すなわち、どの程度の質と量でもって地域差が見い出されるか、を明らかにすることにある。

地域差を規定する要因の1つとして地理的条件があげられる。地理的条件はその地域の経済構造、社会構造に影響を及ぼし、それらがさらには地域住民の生活様式に影響を及ぼす。しかし、その影響の強さと方向は必ずしも一義的ではない。同じく離島、僻地、過疎地でありながら、それぞれの住民の心理構造に大きな差異が認められる。それは地理的条件という概念で一括しえない諸側面が含まれていると同時にいろいろな程度の強さと方向を持った他の要因が存在するからである。そのためにその地域独自の地域性が保たれているのである。したがって、それらの諸要因にはどういうものがあるのか、それらはどのような様式で地域住民に作用するのかという問題への接近は、さらにまた、第2の研究方向にとって欠くべからざるものといえる。

ただ、ここで地域性・地域差という問題について少しく検討を加えておく必要がある。コミュニティ（地域社会）は単に市町村等の行政単位正分として、あるいは河川、山、海などの地理的分離による地域社会としてだけでなく、社会的・心理的集団として把握されなければならない。同一の行政単位であっても1つの河川を挟む対岸と此岸の両地域での心理的、社会的特性は同一の行政単位として一括されえない場合が多い。特に現代社会の典型といわれる集合住宅地（団地）は大小を問わず、それ自身で1つの地域社会を構成していると考えの方が望ましい。コミュニティの基本的要素に地縁性だけでなく共同性が上げられてきたのは単に行政区分・地理的区分としてコミュニティをとらえることの不十分さを示すものであり、地縁性・共同性を前提とした心理的・社会的集団としてのコミュニティ把握の必要性を示すものである。

心理学・社会学にとってコミュニティは比較の問題としても把握される。ある心理学的、社会的アプローチが加えられた結果から、ある住居区の住民に他の周辺の住居区の住民と異なった心理学的・社会的諸特性が認められた場合にはその住居区は1つのコミュニティを形成していると考えうるからである。例えば、ある住居地区における行動的人間関係をコミュニケーションの対象と量として把握するとするならば、1つのコミュニケーションマップを描くことができ、そのマップから住居地区の心理学的・社会的意味の区分が可能であり、その1つ1つが1つのコミュニティとしてまとまりを持つと考えよう。

したがって、コミュニティの特性（地域性）を論ずるにあたり、コミュニティを行政区分ないしは地理的区分としての1つの地域的まとまりを前提に、特定の地域内あるいは周辺の数個の地域にまたがる心理社会的集団として定義づけるのが妥当である。

勿論、実際問題として研究対象にあるコミュニティを選定する場合、行政単位あるいは地理的区分による方が一義的で便利であり、過去の多くの研究が対象地域設定に用いてきた方法である。しかし、結果の解釈には、常にコミュニティが心理社会的集団であることを念頭においてあたねばならない。さもなくば、対象としたコミュニティ全体の結果にのみ分析の主眼がおかれ、分析の方法によっては非常に貴重な結果を引き出しうる可能性を無に帰することになる。

この意味で、地域性とは地域の有機的な機能を前提にする地域独自の特質と考えうるし、地

域の伝統はその地域性の凝集したものであり、地域差とはその地域性の差異と考えうる。

しかし、今日この意味での地域社会（すなわち、旧来的な地縁性と共同性にもとづくコミュニティ）は消滅しつつある。特に団地では地域社会、地縁的社会への帰属意識が衰退し、近隣における人間関係が弱化しており、(大藪, 1966) 団地だけでなくコミュニティがその基本的要素とする地縁性と共同性を喪失しつつあるのは今日の社会全般の傾向(園田, 1964)といえる。ここに今日地域性を問題とするむずかしさがあり、データの解釈を複雑化させている。

さらに、交通機関の発達、マスコミュニケーションの発達によって、地域性そのものも稀薄になっている。筆者が地域差を上五島と大阪の対比に求めてきたのは、グループ内差以上にグループ間差をいまだ大きく見出しうると考えたからである。

次に、地域社会へのアプローチとしては、いまだ十分な方法論は確立していないが、田中(1971)は地域社会を対象として心理学者が行なっている研究から、1. 参加観察法、2. 計量法、3. 調査法(イ. 地域的パーソナリティ、ロ. パーソナリティ形成、ハ. 市民意識、ニ. 社会態度の変容、ホ. 政治意識)、4. アクション・リサーチ、5. その他、と分類している。

Ⅱ 目 的

筆者は以上の立場から地域差の問題を扱ってきたが、本稿においては、資料集の性格を持たせ、1970、1971の両年度に長崎県南松浦郡中通島(上五島)住民と大阪在住者に実施した「県民性についての社会調査」の結果を示すことにする。

Ⅲ 方 法

1. 調査用紙の作成：パーソナリティ、自己像、価値観、社会的態度、生活意識などをとらえる質問項目をもちこんだ、追手門学院大学社会心理学研究室作成の「県民性についての社会調査」を使用した。各質問項目は後述の資料を参考にさせていただきたい。

2. 調査実施期日：1970年4月～7月、1971年6月～9月の2時期

3. 調査対象者：長崎県南松浦郡、県立上五島高校1年～3年及びその父兄(両年度とも)と大阪府の府立2高校(初年度は寝屋川市、堺市、次年度は2校とも大阪市)、私立1高校(初年度は茨木市、次年度は大阪市)の1年～3年及びその父兄である。

4. 調査実施者：藤本忠明、中村隆、荒砂正名、中島洋二、村田京子(追手門学院大学)

5. 調査実施法：各高校を中心に学生に2部つつ調査用紙を配布し、2～3日後に回収する方法をとった。(1部は本人用、もう1部は父兄用である)

Ⅳ 結 果

本稿においては資料集の性格を持たせるために、結果はすべて表に示し、一切のコメントは紙面の関係上割愛し、次報告にゆずることとする。収録したデータは以下の通りである。なお、表中、上段は男性、下段は女性の比率であり、有川、新魚目、上五島とあるのは五島内の各町であり、 χ^2 値は有川町と他2町の間の値である。

表1. 調査対象者数

表2. 高校生の Dominance 得点の分散分析(1970年)

表3. 「Dominance-Deference」選択率と x^2 値 (1970年)

表4. 高校生の Dominance 得点 (1970年)

表5. 「生活意見」賛成率と x^2 値 (1970年)

表6. 「生きがい」賛成率と x^2 値 (1971年)

表7. 「社会的態度」賛成率と x^2 値 (1971年)

表8. 「社会的態度」賛成率と x^2 値 (1970年)

表9. 「性格特性」肯定率と x^2 値 (1971年)

表10. 「自己像」尺度平均値と F 検定有意水準 (1971年)

表11. 「宗教」・「政治」・「金」についてのイメージの尺度平均値と F 検定有意水準 (1971年)

表1 調 査 対 象 者 数

	五 島				大 阪			
	高 校 生		父 兄		高 校 生		父 兄	
	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性
1970年	258	292	134	161	308	259	70	69
1971年	300	300	100	200	198	256	82	84

表2 高校生の Dominance 得点の分散分析 (1970年)

変 動 因	SS	af	MS	F	p
性 差	60.00	1	60.00	21.81	< .01
地 域 差	2.86	1	2.86	1.04	
交 互 作 用	1.72	1	1.72	< 1	
誤 差	2520.79	916	2.75		

表3 「Dominance-Deference」選択率と χ^2 値 (1970年)

		五 島	大 阪	χ^2 値
	高校生	男 子	女 子	
① 私は必要とあれば強く自己を主張する。		227名	263名	10.740*** 1.360
2 私は自己を表に出さず敬服する人のために熱情をもって働く事ができる。		60.8 58.3	48.7 46.3	7.216*** 6.149**
③ 私は集団 (ゲーム・クラブ・委員会) の活動を組織したり、導いたりする事が好きである。		34.8 33.8	40.7 38.9	1.790 1.243
4 私は自分より上の人の悪い点よりもむしろ良い点を見る。		68.7 72.1	68.1 74.7	.025 .381
5 私は自分を敬服している人に対して、自分の感激と尊敬を吐露する。		53.7 55.0	46.4 52.6	2.638 .239
⑥ 私は自分の見解を主張して熱心に他人と議論する。		51.1 56.3	57.4 62.6	1.958 1.786
⑦ 少年達の集団を指導したり規律を維持する事はやさしい。		16.3 5.0	17.1 15.3	.057 12.950***
8 私は自分なりの方法で事を解決しようと固執するより、むしろ他人の指示を受ける。		50.2 64.2	52.9 52.1	.338 6.370**
⑨ たいていの時、他人が私に影響を与えるより以上に、私が他人に影響を与える。		53.7 40.4	41.1 36.3	7.865*** .752
10 私は友達から、人がよくて親切だと見られている。		39.6 35.4	57.0 61.1	14.739*** 27.796***
11 私はしばしば年長の人に忠告を求めて、それに従う。		59.9 75.8	54.8 71.6	1.324 .996
⑫ 誰かと一緒にいる時、必要な決定をするのは、大抵私の方である。		49.3 44.6	49.4 50.0	.000 1.249
13 私は機会さえあれば賞賛を惜しまない方である。		58.1 57.9	67.7 71.1	4.762** 7.916***
⑭ 私は自分が社会状況を支配できるように思う。		18.5 7.5	22.4 7.9	1.151 .023
⑮ 私は他人の行為を支配する時にいなく権力感が好きだ。		34.4 34.6	37.6 23.2	.015 6.654***
16 私は自分より優れていると思う誰かに同意したり、その人を模倣したりしている自分に気付く事がしばしばある。		75.3 86.3	63.1 73.2	8.462*** 11.564***
17 私は通例、他人の教示に従い、自分に期待されている事をする。		55.9 60.0	47.9 53.7	3.152* 1.728
⑯ 私はリーダーになり、他人を自分の意見に従わせたいと思う。		34.4 18.8	40.3 25.3	1.835 2.654
19 日常のふるまいは習慣に従う。		74.9 83.8	68.4 79.5	2.483 1.306
⑳ 私は権力を求める奥深い欲望にかりたてられている。		32.2 25.8	26.2 13.2	2.077 10.557***

○印 Dominance Scale

* 10%

** 5%

*** 1%

表 4 高校生の Dominance 得点 (1970年)

				N	X	SD	t 値	有意水準	
大 阪	1年生	男 子		115	4.191	1.719	1.355	p < .01	
		女 子		49	3.816	1.734			
	2年生	男 子		70	4.457	1.857	2.924		
		女 子		64	3.453	2.053			
	3年生	男 子		78	3.756	1.848	1.402		
		女 子		77	3.468	1.364			
	1年生	全 員		164	4.003	1.731	2.941		
	2年生	全 員		134	3.953	1.936			
	3年生	全 員		155	3.608	1.597			
	男 子	全 員		263	4.102	1.843			
	女 子	全 員		190	3.581	1.721			
	大 阪	全 員		453	3.854	1.672			
上 五 島	1年生	男 子		66	4.185	1.662	2.811	p < .01	
		女 子		81	3.469	1.335			
	2年生	男 子		84	3.917	1.712	1.724		
		女 子		85	3.541	1.252			
	3年生	男 子		77	3.883	1.628	1.976		p < .05
		女 子		74	3.351	1.447			
	1年生	全 員		147	3.762	1.557	3.496		
	2年生	全 員		169	3.728	1.510			
	3年生	全 員		151	3.623	1.563			
	男 子	全 員		227	3.965	1.691			
	女 子	全 員		240	3.458	1.344			
	五 島	全 員		467	3.705	1.544			
高 校 生	男 子 全 員			490	4.035	1.763	4.761	p < .01	
	女 子 全 員			430	3.542	1.541			

表5 「生活意見」賛成率と χ^2 値 (1970年)

	高校生	男 子	五 島	大 阪	χ^2 値
			256名	307名	
		女 子	292名	259名	
1 一生けん命、働いて金持になること			73.0 66.8	73.0 68.0	.000 .086
2 まじめに勉強（または仕事）して名を上げる事			55.1 54.8	66.4 60.2	7.607*** 1.659
3 金や名誉を考えずに、自分の趣味に合った暮らし方をする事			80.1 79.8	76.5 86.1	1.019 3.825*
4 その日、その日をのんきにクヨクヨしないで暮す事			61.7 61.6	60.9 64.1	.038 .057
5 生活中心に考えて円満な家庭生活をもつ事			84.8 85.3	70.7 76.4	15.671*** 6.983***
6 出世なんかぬきにして、社会に必要な立派な人になる事			71.1 80.8	71.7 78.4	.022 .506
7 世の中の正しくない事を押しのけてどこ迄も清く正しく暮す事			78.5 79.1	72.3 73.4	2.875* 2.518
8 自分自身の事を考えずに、社会の為に自己をささげて暮す事			24.6 18.8	30.6 31.7	2.507 12.084***

* 10% ** 5% *** 1%

表6 「生きがい」賛成率と χ^2 値 (1971年)

	高 校 生				父 兄			
	五 島	有川×新島 上五島	大 阪	五島×大阪	五 島	有川×新島 上五島	大 阪	五島×大阪
1 会社や自分の仕事を一生けん命すること	61.7 65.7	.235 .109	57.1 57.0	1.048 4.358**	89.0 86.5	.723 3.174*	92.7 84.5	.722 .191
2 学問や人格形成など、自分の内面的な生活の充実や向上をはかること	52.7 59.0	2.888* .687	63.6 67.6	5.857** 4.358**	78.0 58.5	.070 1.967	78.0 73.8	.000 5.950**
3 休日や余暇を趣味やリクレーションで楽しむこと	65.7 64.3	.089 3.227	68.2 69.5	.340 1.681	56.0 53.5	.167 1.426	58.5 54.8	.118 .038
4 家庭が円満で家族が健康であること	83.3 89.0	.400 .895	72.2 84.8	8.850*** 2.197	97.0 96.5	.007 .002	93.9 98.8	.424 .463
5 お金をもうけて経済生活の向上をはかること	45.7 38.7	.573 1.687	38.4 24.2	2.585 13.248***	74.0 71.0	.006 .072	67.1 63.1	1.047 1.718
6 友人や恋人など身近な人間関係に恵れること	79.0 86.0	.405 1.549	81.8 87.1	.595 .146	76.0 69.5	.172 .055	75.6 75.0	.004 .871
7 社会のために役立っていること	45.3 42.7	2.296 .113	49.0 41.4	.641 .090	78.0 56.5	1.649 1.582	82.9 53.6	.689 .206
8 理想や信仰に生きること	28.0 30.0	.466 2.694	29.3 25.0	.098 1.724	56.0 60.0	1.671 .291	45.1 33.3	2.134 16.856***
9 地位や名誉をうること	20.0 15.7	.087 .121	17.7 14.1	.417 .398	35.0 19.5	.002 1.948	34.1 17.9	.015 .104
10 生きていること、生活すること自体が生きがい	56.3 60.0	.382 .120	45.5 26.2	5.656** 64.023***	80.0 82.0	.178 1.195	62.2 73.8	7.081*** 2.442
N	男 子	300	198		100		82	
	女 子	300	256		200		84	

* 10% ** 5% *** 1%

表7 「社会的態度」賛成率と χ^2 値 (1971年)

		高 校 生				父 兄			
		五 島	有川×新島 上五島	大 阪	大阪×五島	五 島	有川×新島 上五島	大 阪	大阪×五島
1	家のあとつぎはどの子でもよい	88.7 89.0	.022 .047	86.9 89.8	.364 .104	72.0 62.0	1.360 2.533	69.5 79.8	.135 8.474***
2	結婚についてはある程度家柄を問題にする	20.7 27.7	.410 .566	22.2 37.5	.172 6.118**	41.0 51.0	.001 2.874*	75.6 84.5	21.969*** 27.923***
3	文明の発達のためには自然の破壊はある程度仕方がない	31.7 33.3	7.766*** .184	25.3 33.2	2.378 .001	58.0 62.0	.014 .468	65.9 54.8	1.174 1.290
4	現在の世の中は金持ちに都合よくできている	64.0 62.3	2.317 .296	70.2 71.1	2.058 4.749**	59.0 58.0	2.860* .159	62.2 59.5	.192 .057
5	天皇制は廃止すべきだ	43.0 32.3	.020 .765	47.5 43.0	.966 6.686***	15.0 10.0	.126 1.879	7.3 17.9	2.606 3.380*
6	親は子供にとって友人的な存在である方がよい	36.0 59.0	.195 .164	48.0 71.9	7.089*** 10.055***	61.0 65.0	.567 1.195	59.8 72.6	.029 1.559
7	子供は厳しく育てるべきだ	64.7 54.0	.156 7.379***	59.6 53.1	1.311 .043	80.0 74.5	.011 2.419	74.4 81.0	.812 1.366
8	学歴は必要である	60.0 59.7	.231 1.562	52.5 61.7	2.719 .244	78.0 87.5	.600 2.962*	86.6 90.5	2.237 .510
9	日本古来の文化をもっと保護すべきだ	87.7 93.3	.185 .486	89.4 93.8	.346 .040	96.0 87.0	.023 .435	91.5 94.0	1.633 2.340
10	年忌や年祭は必ずおこなう	76.7 71.7	.311 .465	59.1 62.9	17.440*** 4.859**	85.0 85.0	.056 .187	73.2 76.2	3.893** 3.165*
11	女性がタバコをすったり酒を飲むのはよくない	82.3 71.7	.749 1.490	66.2 57.0	17.055*** 12.993***	76.0 71.5	.006 .004	70.7 57.1	.644 5.537**
12	女の方が苦労が多い	27.7 45.7	.336 4.279**	26.3 50.3	.119 1.448	41.0 67.5	2.860* .160	40.2 56.0	.011 3.427*
13	女性が男性より目上の地位につくのは何となく不自然だ	79.3 61.3	1.494 .304	67.2 44.5	9.286*** 15.679***	68.0 68.0	3.476* .267	76.8 56.0	1.741 3.747*
14	高校生の男女交際は認めるべきだ	93.0 93.3	1.794 .486	93.4 98.0	.035 6.091**	59.0 47.5	.207 1.618	59.8 70.2	.011 12.322***
15	労働組合の活動はもっと認めるべきだ	84.0 86.7	1.823 .164	82.8 87.1	.119 .024	59.0 67.5	.163 4.447**	37.8 34.5	8.097*** 26.364***
16	議員の選挙には必ず投票する	87.0 87.7	.241 1.993	84.3 84.4	.697 1.254	96.0 94.5	.023 .098	86.6 86.9	5.281** 4.775**
17	現在の法律はもっと強化すべきだ	44.3 45.0	1.522 .038	49.0 49.6	1.041 1.178	73.0 71.0	3.299* .003	65.9 71.4	1.091 .005
18	世の中の事は政治家にまかせておけばよい	4.7 7.7	.003 .810	8.1 4.7	2.456 2.078	17.0 36.5	.192 .651	14.6 11.9	.188 17.300***
19	宗教は必要である	70.7 75.7	.096 .425	61.6 55.9	4.424* 24.343***	80.0 90.5	2.184 .285	78.0 77.4	.104 8.784***
20	堕胎(妊娠中絶)はすべきでない	76.3 77.7	.889 1.208	60.6 68.0	14.071*** 6.622**	57.0 86.0	.477 .568	58.5 73.8	.044 6.060**

* 10% ** 5% *** 1%

表 8 「社会的態度」賛成率と χ^2 値 (1970年)

		五 島		大 阪		五島×大阪 χ^2 値	
		高校生	父 兄	高校生	父 兄	高 校 生	父 兄
		550名	295名	566名	139名		
1	自分のことを心配して、本当に親身になってくれる人はこの世の中にいそうもない	28.5	33.9	24.6	35.3	.275	.077
2	現実のこの世の中では結局金だけがものをいう	36.4	57.3	30.0	35.3	5.041**	24.873***
3	何かやろうと思ったら命をおそれてはだめだ	66.7	63.1	58.3	50.4	8.441***	6.290**
4	他人の立場に立って物事を考えていたら、人生の落伍者になってしまう	26.1	30.5	18.6	27.3	7.004***	2.029
5	親は子供にとって威厳ある存在であるよりも友人であるほうがよい	44.0	64.1	63.8	75.5	43.944***	5.709**
6	現在の法律は貧乏人に都合が悪く、金持に都合よくつくられている	57.1	52.5	67.8	61.2	25.424***	1.719
7	人間は結局利己的な動物だから、他人を最後まで信用することはできない	47.8	56.3	43.2	61.9	2.310	3.217
8	世の中の動きや社会のしくみなど自分にとってどうでもよいことだ	12.5	9.8	8.3	8.6	6.148**	.158
9	仕事とレジャーを割り切って、レジャーに生きがいを持つのがよい	22.0	33.9	24.0	22.3	.647	6.029**
10	話のまとまらない時「鶴の一声」のような人がどうしても必要である	71.8	75.3	64.1	74.8	7.559***	0.10

** 5% *** 1%

表 9 「性格特性」肯定率と χ^2 値 (1971年)

		高 校 生				父 兄			
		五 島	有用×新魚目 上五島	大 阪	大阪×五島	五 島	有用×新魚目 上五島	大 阪	大阪×五島
		55.0 41.3	.505 2.985*	53.0 55.5	.186 11.060***	35.0 30.0	.237 .453	25.6 35.7	1.865 .892
1	ユーモアに富んでいる								
2	気前がよい	34.7 30.7	11.011*** .055	40.4 42.2	1.685 7.960***	49.0 53.5	.078 .809	48.8 50.0	.001 .291
3	孤独には堪えられない	24.3 24.0	3.910** 1.985	22.2 38.3	.296 13.272***	25.0 27.0	1.485 2.428	28.0 34.5	.216 1.619
4	若々しい (年より若くみえる)	26.0 26.0	1.042 .670	25.8 27.3	.004 .128	39.0 28.5	1.406 1.533	45.1 41.7	.694 4.683**
5	知的で理論を好む	17.7 9.3	.061 .087	33.3 19.1	16.093*** 11.134***	32.0 16.0	.003 .074	40.2 31.0	1.334 8.138***
6	あまり物事にこだわらない	34.3 33.3	.483 4.599**	37.9 38.3	.653 1.475	62.0 59.5	2.907* .017	48.8 46.4	3.196* 4.095**
7	人の意見をよく聞くがそれに左右されやすい	50.0 56.3	.889 3.444*	52.5 55.5	.304 .042	32.0 36.5	.257 .039	32.9 35.7	.018 .016
8	手あたりしだい何でもやってみたい	60.0 55.7	.000 .001	52.5 58.2	2.719* .362	27.0 28.5	.152 .069	19.5 31.0	1.400 .172
9	原理や価値観や目標を持たないので何事にも首尾一貫しない	26.3 30.3	.026 .021	25.3 22.7	.073 4.150**	6.0 12.0	.139 2.171	7.3 14.3	.127 .279
10	合理性を考えて能率的に行動しようとする	37.0 35.3	.021 2.932*	44.9 35.2	3.137* .002	72.0 47.0	.051 4.628**	76.8 57.1	.549 2.434

* 10% ** 5% *** 1%

表10 「自己像」尺度平均値とF検定有意水準

	1970年				1971年			
	高 校 生		父 兄		高 校 生		父 兄	
	五 島	大 阪	五 島	大 阪	五 島	大 阪	五 島	大 阪
1 手先が器用である	2.63 2.86	* 2.49 2.71	2.51 2.77	2.51 2.58	2.70 2.83	2.65 2.72	2.40 2.64	** 2.66 2.63
2 注意深い	2.56 2.70	* 2.72 ** 2.88	2.29 2.57	2.22 2.58	2.64 2.63	2.68 2.74	2.41 2.49	*** 2.01 2.42
3 体力がある	2.80 2.95	2.76 2.97	2.75 2.82	** 2.47 2.80	2.82 2.96	2.69 2.91	2.81 2.83	2.81 2.98
4 親切である	2.48 2.56	*** 2.22 ** 2.35	2.25 2.29	* 2.06 2.00	2.44 2.54	* 2.22 2.73	2.22 2.31	* 2.16 2.12
5 細かい点まで気がつく	2.89 2.89	*** 2.59 2.63	2.55 2.60	* 2.25 2.48	2.73 2.85	2.57 2.60	2.40 2.55	** 2.05 * 2.32
6 計算がうまい	2.93 3.05	2.92 3.09	2.91 3.04	** 2.50 3.14	3.00 3.06	2.83 3.04	2.80 3.11	** 2.50 2.99
7 正確である	3.02 3.20	2.94 3.09	2.93 3.07	** 2.51 3.09	3.02 3.22	2.92 ** 2.95	2.62 2.93	* 2.38 2.85
8 きれい好きである	2.27 2.16	2.36 2.14	2.26 2.20	2.07 2.23	2.34 2.34	2.33 ** 2.69	2.16 2.30	2.12 2.20
9 機敏である	2.67 2.92	2.63 2.86	2.56 2.74	* 2.29 2.59	2.63 2.91	2.52 2.89	2.38 2.66	2.41 2.68
10 説得力がある	3.18 3.26	3.21 * 3.10	2.99 3.16	*** 2.49 3.25	3.24 3.20	3.07 ** 2.93	2.81 3.01	* 2.62 2.94
11 活気がある	2.59 2.60	2.49 *** 2.25	2.51 2.70	2.28 2.55	2.65 2.68	2.55 2.62	2.44 2.70	2.55 2.58
12 独創的である	2.79 2.80	** 2.60 * 2.62	2.75 3.04	* 2.53 2.91	2.83 2.91	* 2.60 2.71	2.69 2.95	2.56 2.83
13 社交的である	3.17 3.18	*** 2.87 *** 2.74	2.99 3.19	*** 2.60 * 2.97	3.04 3.17	2.90 ** 2.84	2.95 2.98	* 2.77 2.95
14 文章がすぐできる	3.62 3.26	*** 3.39 ** 2.98	3.29 3.42	*** 2.87 ** 3.26	3.66 3.43	*** 3.22 *** 3.01	3.16 3.28	** 2.83 3.15
15 美的センスに富む	2.73 2.69	2.64 * 2.49	3.05 2.95	** 2.69 * 2.64	2.74 2.70	2.59 2.61	2.77 2.93	2.76 *** 2.52
16 いつでも気分が安定している	3.31 3.45	3.30 3.38	3.10 3.16	2.99 3.03	3.23 3.33	3.33 3.41	2.98 3.03	2.83 2.99
17 理論を好む	3.38 3.40	* 3.27 3.32	3.31 3.39	3.32 3.29	3.34 3.35	* 3.04 3.18	3.01 3.29	2.84 3.10
18 粘り強い	2.97 3.15	2.86 3.08	2.90 3.04	** 2.54 2.84	3.21 3.32	3.07 3.18	2.74 2.94	** 2.39 * 2.68
19 沈着である	3.20 3.58	3.24 3.47	2.74 3.09	2.63 3.07	3.35 3.56	3.20 * 3.30	2.80 3.06	2.61 2.93
20 思慮深い	2.92 2.81	2.82 2.81	2.63 2.73	2.54 2.67	2.93 2.96	2.84 2.94	2.57 2.73	* 2.30 * 2.43

* 10% ** 5% *** 1%

注. 数値小さいほど左記の特徴が強い

表11 「宗教」・「政治」・「金」についてのイメージの尺度平均値とF検定有意水準(1971年)

	宗 教				政 治				金			
	高 校 生		父 兄		高 校 生		父 兄		高 校 生		父 兄	
	五島	大阪	五島	大阪	五島	大阪	五島	大阪	五島	大阪	五島	大阪
1 積極的—消極的	3.31* 3.32	3.64 3.46	2.87 2.84**	3.16 3.24	3.06 3.22	3.05 3.34	2.62 2.89	2.84 2.99	2.28 2.38	2.29 2.22	2.54 2.70	2.48 2.30
2 浅い—深い	2.98 3.08	2.73 2.95	2.97 3.29**	3.06 2.85	2.84 2.70	2.94 2.69	3.13 3.07	3.15 2.95	3.31 3.24	3.24 3.22	3.24 3.16	3.16 3.23
3 美しい—みにくい	2.66* 2.44***	2.99 2.82	2.48 2.47	2.70 2.65	3.69 3.84	3.98 3.70	3.32 3.36***	3.59 3.92	3.77 3.97	3.97 4.09	3.25 3.23	3.22 3.54
4 女性的—男性的	2.56 2.46	2.83 2.36	2.92 2.58	2.85 2.44	3.60 3.83	3.69 3.86	3.57 3.25	3.50 3.51	3.04 2.97	3.02 2.96	3.30 2.93	3.38 3.21
5 まちがった—正しい	3.36** 3.33	2.98 3.17	3.53 3.57*	3.33 3.27	2.81** 2.72***	2.32 2.36	3.05 3.14	3.21 2.80	2.73 2.72	2.74 2.60	3.28 3.22	3.45 3.07
6 すぐれた—おとった	2.91 2.74	2.98 2.88	2.70 2.63	2.63 2.82	3.00 3.13*	3.37 3.37	2.94 2.85**	2.85 3.30	2.80 2.78	2.99 2.86	2.75 2.74	2.60 2.77
7 便利な—不便な	3.12 2.90*	3.15 3.11	2.87 2.78	3.01 2.99	3.04 3.13	3.26 3.18	2.82 2.73	2.82 2.95	2.09 1.94	2.01 1.86	2.16 2.25**	1.96 1.93
8 不正確な—正確な	2.89 2.99*	2.62 2.79	3.38 3.14	3.01 3.01	2.88** 2.75***	2.31 2.42	3.00 3.26**	2.88 2.58	3.29 3.16	3.31 3.16	3.41 3.40	3.13 3.36
9 楽しい—苦しい	3.16 3.14	3.29 3.29	2.69 2.68**	2.84 2.98	3.48 3.40	3.41 3.52	2.91 2.93**	3.05 3.43	2.85 2.92	2.82 2.87	2.84 2.83	2.65 2.70
10 のろい—すばやい	2.76 2.65	2.56 2.50	2.87 3.10	2.80 2.89	2.63* 3.78*	2.17 2.53	2.99 3.16**	2.99 2.62	3.47 3.54	3.31 3.36	2.35 3.42	3.07 3.40
11 柔かい—固い	3.15** 2.95***	3.49 3.43	3.04 2.89**	3.23 3.35	3.72 3.84	3.83 3.85	3.39 3.36	3.06 3.18	3.55 3.49	3.36 3.48	3.39 3.41	3.29 3.52
12 不活発な—活発な	2.81 2.85	2.79 2.98	3.10 3.29	3.10 3.11	2.81 2.91*	2.50 2.67	3.25 3.31	3.15 3.00	3.44 3.63	3.35 3.50	3.38 3.48	3.54 3.50
13 嫌いな—好きな	2.91** 2.98***	2.51 2.68	3.25 3.49**	3.05 2.94	2.53 2.39	2.64 2.44	3.12 3.21**	2.91 2.63	3.52 3.50	3.55 3.68	3.57 3.62	3.57 3.80
14 陰気な—陽気な	2.52* 2.34	2.18 2.18	3.05 3.14	2.77 2.87	2.60 2.75**	2.45 2.41	2.94 3.17	2.96 2.86	3.19 3.18	3.08 3.17	3.27 3.32	3.49 3.57
15 大きい—小さい	2.61 2.57*	2.68 2.77	2.94 2.65	2.80 2.79	2.57 2.50	2.70 2.65	2.57 2.67	2.73 2.81	2.40 2.37	2.53 2.58	2.58 2.69	2.50 2.27
16 束縛された—自由な	2.73** 2.68***	2.35 2.34	3.36 3.32**	2.96 2.87	2.45 2.40	2.34 2.35	3.09 3.07	3.26 2.75	3.13 3.21	3.09 3.16	3.03* 3.29	3.35 3.29
17 たのもしい—頼りない	2.97 2.84*	3.13 3.05	3.11 2.61	2.99 2.76	3.33 3.36	3.67 3.55	3.09 2.95*	3.05 3.36	2.38 2.45	2.53 2.48	2.52 2.59	2.28 2.29
18 四角い—円い	3.12 3.27	3.00 3.10	2.30 3.46	3.15 3.35	2.61 2.42	2.48 2.20	3.01 3.07	3.10 2.80	3.36 3.52	3.53 3.54	3.20 3.35	3.29 3.36
19 短かい—長い	3.46 3.62	3.34 3.53	2.14 3.44	3.29 3.27	3.07 2.98	2.77 2.77	3.04 3.10	3.18 3.12	2.97 2.95	2.92 2.84	3.25 3.02	3.28 3.15
20 鋭い—鈍い	2.92 3.00	3.17 3.02	2.90 2.90	2.98 2.98	3.11 2.98*	3.51 3.22	2.87 2.94	2.90 3.07	2.66 2.59	2.54 2.46	2.63 2.84	2.55 2.51

* 10% ** 5% *** 1%

注. 数値が小さいほど左の尺度に近い評定である

最後に、上五島高校校長 島田清春先生はじめ、データ収集に多大のご配慮をいただきました各高等学校 諸先生がたにつつしんで謝意を表します。

(1972・9・30)

引用・参考文献

1. 会田雄次 日本人の意識構造 講談社 1970
2. 土居健郎 「甘え」の構造 弘文堂 1971
3. 藤本忠明 地域差の社会心理学的研究(1) —上五島と大阪在住者の自己像の比較— 追手門学院大学文学部紀要 5 1971 p. 5～p. 15
4. 福武 直他 日本農民の社会的性格 有斐閣 1954
5. Fromm, E. 谷口, 早坂訳 人間における自由 創元新社 1955
6. 現代のエスプリ 日本人 至文堂 1971
7. 磯村英一 人間にとって都市とは何か 日本放送出版協会 1968
8. 川島武宜 日本人の家族構成 日本評論社 1948
9. 川島武宜 日本人の生活意識 学生社 1954
10. 河村雷雨 社会学序説 双葉書店 1968
11. 京都大学近畿圏総合研究会 近畿圏 鹿島出版会 1969
12. LINTON, R. 清水, 犬養訳 文化人類学入門 東京創元社 1952
13. 南 博 日本人の心理 岩波書店 1953
14. 見田宗介 価値意識の理論 弘文堂新社 1966
15. 見田宗介 現代の生きがい 日本経済新聞社 1970
16. 三枝博音 西欧化日本の研究 中央公論社 1958
17. 宮城音弥 日本人の性格 朝日新聞社 1969
18. 宮本常一 日本の離島 第1集 未来社 1969
19. 文部省統計数理研究所国民性調査委員会 第2 日本人の国民性 至誠堂 1970
20. Newcomb, T. M. 森, 万成訳 社会心理学培風館 1950
21. 岡正雄教授古稀記念論文集 民族学からみた日本 河出書房新社 1970
22. 大藪寿一 応用社会学 誠信書房 1966
23. 世良正利 日本人の心 日本放送出版協会 1965
24. 祖父江孝男 県民性 中央公評社 1971
25. 園田恭一 地域社会と共同社会 社会学評論 14巻4号 1964 p. 47—p. 63
26. 田中靖政 現代日本人の意識 中央公論社 1971
27. 田中国夫 地域社会心理学の諸問題 第38回日本応用心理学・第83回関西心理学会合同大会発表論文集 1971 p. 32
28. 高木正孝 日本人の生活心理 創元社 1954
29. 竹内良知 疎外される人間 平凡社 1967
30. 築島謙三 文化心理学基礎論 勁草書房 1962
31. 梅棹忠夫, 多田道太郎編 日本文化の構造 講談社 1972
32. 和辻哲郎 風土 岩波書店 1935
33. 依田新, 築島謙三編 日本人の性格 朝倉書店 1970